

しやつきー

- 赤い羽根共同募金
- 生活支援コーディネーターが素敵な活動を紹介します
- NEWS&TOPIX『町老連社会奉仕の日協賛事業』ほか
- 厚岸町立特別養護老人ホーム心和園だより
- 在宅老人デイサービスセンターだより
- あっけし昔話～安達由圃さん

7月27日、福祉センターの大ホールと駐車場で開催された「みんなのあそびば」。巨大エアースライダーや、お祭り顔負けの屋内縁日、駐車場には出張動物園もあり子どもたちの目はキラキラ！子育て団体「あそぼーの」とボランティアのみなさんの協力が、子どもたちの笑顔に繋がっています。



じぶんの町を良くするしくみ。

赤い羽根共同募金



運動スタート！運動期間10月1日～12月31日 厚岸町共同募金委員会

＼2024年度／

募金運動が始まります



厚岸町で実施する共同募金運動は、さまざまな場所・方法で、寄付のご協力をお願いしています。厚岸町で集まった募金は、「じぶんの町を良くするしくみ」の言葉どおり、厚岸町の地域福祉活動のために活用されています。まちのどこかで、赤い羽根共同募金を見かけた際には、ぜひ、募金運動の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

どこで、どんなふうに募金活動をしているの？

- 戸別募金…自治会に協力をいただき、地域にお住いの世帯全体に募金をお願いしています。
- 法人募金…厚岸町の企業・商店に募金をお願いしています。
- 街頭募金…街頭に立って募金協力の呼びかけをしています。
- イベント募金…厚岸町各地のイベントにブースを設置し、募金をお願いしています。
- 募金箱設置…厚岸町内の各施設、企業、商店に募金箱を設置し、募金をお願いしています。



街頭募金の活動

集めた募金はどう使われているの？

厚岸町で集まった募金の約8割は、申請・審査を受け決定された、経済的支援を必要とする厚岸町内の福祉活動を行なう団体、ボランティア、施設などへ助成されます。残りの約2割は、北海道共同募金会において、全道・広域で規模の大きな福祉活動に対する助成や、緊急災害に対する準備金の積立てなどに使われます。今回は、助成団体の活動の一部を写真で紹介いたします。



子育て団体「あそぼ一の」の親子の交流事業。雨の日にも遊べる屋内遊具に子どもたちは大喜びです。



「身体障害者福祉協会厚岸町分会」の会員研修事業。研修を通して会員の交流や情報交換の場にもなっています。

太田農協酪農祭イベント募金

10月5日(土)、釧路太田農業協同組合を会場に開催される「第8回酪農祭」にて、赤い羽根共同募金のブースを出展します！

写真のようなブースで募金活動を実施します！寄付金付きバッジや粗品の風船、初音ミククリアファイルなどもあります。詳しくは会場でお問い合わせください。美味しい食べ物を食べに来場した際は、気軽に赤い羽根共同募金ブースも覗いてみてください。



寄付金付きピンバッジ



2024年の北海道限定、寄付金付きピンバッジの取扱いが始まりました。

デザインは、「アザラシ親子」「ペンギン親子」「初音ミク」「雪ミク」の4種類です。

500円以上の募金協力をされ、希望される方に1つ差し上げます。イベント時のブース、街頭募金、社会福祉協議会窓口で取扱いしていますので、お問い合わせください。

災害義援金へのご協力をお願い

大規模な自然災害を受けた地域への支援・復興のための「災害義援金」。

現在、社会福祉協議会窓口では「令和6年能登半島地震災害義援金」と「令和6年7月大雨災害義援金(秋田、山形)」の義援金を受け付けています。たすけあいの心で、被災された県へのご協力をお願いします。



New Face



居宅介護支援事業所
飯島 友和

新規採用職員を紹介します。

6月17日より居宅介護支援事業所で勤務させていただいております。中標津出身でランニングなどが趣味です。

高校卒業後、整備士の仕事をしていましたが介護の仕事に興味を持ち始め、介護保険制度が始まった2000年に中標津のデイサービスに勤めました。沢山の高齢者の笑顔や、優しさのなか人間として成長させてもらいました。高齢者介護と出会った貴重な5年間でした。その後19年間、別海でデイサービスの生活相談員、居宅介護支援事業所のケアマネージャー、デイサービス管理者として勤務していました。高齢者介護や福祉の仕事はとてもやりがいがあります。これまでの経験を活かして、厚岸町の皆様のお役に立てるよう頑張っていきますので応援よろしくをお願いします。

生活支援コーディネーターが 素敵な活動を紹介します Vol.3

ここから
スタート！

4月

4月20日、ボランティアのみなさんと一緒に畑の土づくり作業を行いました。



畑となる場所に土を足して耕し、肥料を混ぜ合わせてたくさん野菜が育つように願いを込めて一生懸命作業しました。

土づくりが終わったら、今度は用意してあったハウスの骨組みにビニールを張ってビニールハウスを完成させました。



5月

5月10日、

子夢希児童館の1・2年生の子たちと一緒に種イモ植えを行いました！

ウネを3列作り、子ども達に種イモを入れて土をかぶせる作業を手伝ってもらいました。

その後、ハウスの中に植えた苗をみんなで見学しました。これからどんな風に成長していくのかワクワクしながら見ていました！



野菜を植えるために土に肥料を加えて準備もバッチリ♪

6月

6月11日、

今回も子夢希児童館の1・2年生の子ども達と一緒にハウスの中の草むしり作業を行いました。5月に植えたイモや苗の成長を見て「すご〜い！」「葉っぱが出てる！」と感動する声が多く聞かれました。草むしりが終わったあと、ハウスの横のスペースにニンジンと枝豆の種を撒きました。



毎日の水やりやハウスの中の温度管理など、ボランティアさんの力が必要不可欠です！

みんなの農園「社協アグリ」

たくさんの野菜が育っています！

8月

8月20日、

5月にみんなで植えたイモを収穫しました。

子夢希児童館の1・2年生の子ども達と一緒に、自分達が植えたイモを掘ってたくさん収穫することができました！収穫したイモは収穫祭用に少し残り、みんなで分け合ってお土産にしました。イモを収穫した後はボランティアのみなさんと畑を整え、大根の種を植えました。すくすく育ちますように…



収穫祭まであと少し！

ほぼ毎日収穫できる野菜があり、お手伝いしてくれるボランティアの方たちと分け合っています♪



ハウスの中の野菜が続々と収穫できるくらいまで成長しました！そこで、夏

7月

休み中の子夢希児童館の子ども達とハウス内の野菜を収穫しました。キュウリ、ナス、ミニトマト、ピーマンと、大きくなった様々な野菜に興奮しながら収穫を楽しみ、その収穫した野菜を手に記念撮影♪



毎日お世話してくれているおかげで立派な野菜に育ちました！

日々の水やりが、近所のボランティアさんに頼り切りで負担が大きくなってしまっている問題点も…

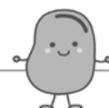
ボランティア募集中！ ～一緒に汗を流しませんか～

社協アグリに協力していただけるボランティアを募集しています！
その他、生活のちょっとした困りごとなども気軽にお問い合わせください。

厚岸町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 芳賀

☎0153-52-7752

第9回 訪問介護のまめまめ知識



第9回は「杖の利用について」です。転ばぬ先の杖、ということわざがありますが、まったくその通り！「私はまだまだ大丈夫」と杖を使わずに歩かれている方が多いと思いますが、実は、「たまにふらつく」「平らな道でつまづく」など、このような経験がいくつか思い当たる方は、杖の利用の開始をおすすめします。

転んで怪我をしてしまったからでは、手遅れです。「1人で歩くにはどことなく不安だなあ」と思った時から、使い始めて杖に慣れておきましょう。



『杖を一步前に出す』 → 『一步進む』 をくりかえし歩きます。杖を引きずってしまったら、足と杖と一緒に出したり、間違った使い方をするると転びやすくなります。正しい高さ、使い方を確認し、最強の相棒になってもらいましょう。

指定居宅介護支援事業所Q&A ～ケアマネあきやがお答えします！～



ケアマネさんが自宅訪問するのはどうしてですか？

13 : 30

あきやケア
マネージャー

介護保険サービスを適切に利用するためには、ケアプランの管理が必須となりますが、その際ケアマネージャーは、ご本人の自宅での生活状況を把握するために、要介護の方は毎月1回以上、要支援の方は3か月に1回以上、自宅へお邪魔しています。健康状態や生活環境に変化がないか、ケアプランに沿った適切なサービスが提供されているか、ご本人のニーズに合っているか、新たな困り事等はないかなどを評価・確認（モニタリング）し、必要に応じてケアプランの修正を行います。

また、ご家族等の介護者や支援者とのやりとりを通じて、ご本人の状況などを共有し、関係者を含めた協力体制の構築を図っています。

併せて翌月のサービス予定表を持参し、日程を確認いただくことで、必要なサービスの提供漏れを防ぐことも目的としています。

既読

13 : 40

厚岸町立特別養護老人ホーム心和園だより

敬老記念品授与式

今年の敬老の日は9月16日でしたが、心和園では一足早く、9月13日15時より敬老記念品授与式を開催しました。新型コロナウイルス感染対策もあり、ここ数年は規模を縮小してご家族の参加のない開催となっていました。まだコロナ禍以前のように、多くのご家族・来賓が来園されるような規模での開催とはなりませんでしたが、敬老祝金対象の利用者と、そのご家族に来園していただき、一緒にお祝いすることができました。



今年の厚岸町長寿祝金対象となった方々は、米寿（88歳）5名、白寿（99歳）2名、仙寿（100歳以上）2名の計9名でした。参列されたご家族が見守る中、心和園永川施設長より長寿祝金と敬老記念品が手渡されました。式典や記念撮影を通して、皆さま終始嬉しそうな表情でした。

敬老祝金対象者以外の利用者にも、長寿をお祝いし、心和園からささやかながら敬老記念品を贈呈しました。また、式の開催にあたり、町内在住の堀部禮子様より素敵なお花の寄贈をいただきました。

カフェ行事

8月20日、カフェ行事を開催しました。心和園の各フロアで、アイスクリームと飲み物を用意しました。

天気が良く、あたたかい日だったので皆さんに喜んでいただけたようです。ときにはゆっくり甘いものを食べて、リラックスすることも大切ですよね。気持ちも和み、みなさんの表情も“甘い”表情に変わっていました。



厚岸産昆布の寄贈



8月21日、厚岸漁業協同組合様より、棹前昆布20kgを寄贈いただきました。

入所者へ提供する食事の食材として使用させていただきます。

慣れ親しんだ地元の名産品ということもあり、利用者みなさんに毎年たいへん喜ばれています。

★社協の行催事のほか、町内福祉団体の話題などをまとめてお伝えします。

■町老連社会奉仕の日協賛事業

厚岸町老人クラブ連合会

9月18日、厚岸町老人クラブ連合会では、老人クラブの3大運動のひとつ「奉仕」活動の一環として、昨年に引き続き特別養護老人ホーム「心和園」の車いす清掃を行いました。

秋とは名ばかりに暑い日でしたが、入居者のみなさんが少しでも気持ちよく過ごせるようにと、会員14名で、30台近い車いすを2時間かけきれいにしました。会員からは「将来自分が入った時のためにもきれいにしておく！」など冗談も飛び交い、楽しく活動を行っていました。



竹串も使って隅の汚れまできれいにする老人クラブ会員

■赤い羽根チャリティーパークゴルフ大会

厚岸町共同募金委員会



優勝杯と美味しい厚岸の味覚をゲット

9月22日、宮園運動公園パークゴルフ場にて、令和6年度赤い羽根チャリティーパークゴルフ大会を開催しました。42名の参加者でスコアを競い、男性の部/竹内孝一さん 女性の部/岩谷博子さんが見事優勝を勝ち取りました。

優勝賞品は、釧路太田農業協同組合様からあつけし極みるく65と乳製品詰め合わせ、厚岸漁業協同組合様から生さんま2kgを寄贈いただきました。

当日は参加者にたくさんの募金協力をいただき、募金運動にも大きく弾みがつく大会となりました。

■スポーツ交流会

身体障害者福祉協会厚岸町分会

身体障害者福祉協会厚岸町分会は8月20日、サン・アビリティーズくしろで行われた釧路地区スポーツ交流会に参加しました。

市町村関係なく編成された「たぬきチーム」と「きつねチーム」の2チームに分かれ、レクリエーションで熱戦を繰り広げました。なかでも棒を使って筒を隣の人へ送って速さを競う「山を越えろ」では、会員たちから「思うように渡せな〜い」とコントロールに苦戦しつつも、ゲームを通してほか市町村会員と打ち解け合い、笑いの絶えない交流の機会となりました。



勝負ごとになるとついつい熱くなる会員たち

在宅老人デイサービスセンターだより

デイサービスの 夏祭り

7月22日(月)～26(金)の5日間、デイサービスの大イベントである「夏まつり」を行いました。屋台メニューは、フレンチドック・焼きそば・たこ焼き・クレープ・フライドポテト・アイスクリームなどさまざま。期間中は、天候に恵まれ暑い日が続いたせいか、アイスクリームが一番好評でした。縁日では、的あて・ひもくじ・魚釣り・輪投げの4つのコーナーを設け、総合得点上位3名には、豪華景品が当たります。全員参加のじゃんけん大会は、大盛り上がり。肩が上がらないという方も「じゃんけん…ぽん！」で力強く拳をあげていました。やはり景品が当たること、勝負事となるとみなさん気合の入りが違いました。今年の夏まつりも多くの笑顔と歓声の中、終えることができました。

5日間の長丁場を乗り切れたのは、快く要請を引き受けていただいたボランティアの皆様のおかげです。屋台の調理から縁日のゲームと、開始前から終了まで毎日忙しい中、ご協力、本当にありがとうございました。

～夏祭り思い出アルバム～



寄付・寄贈ありがとうございます

～社協や心和園へ寄贈がありました。皆さまの善意ありがとうございます～

- 【寄付金】 ▼特別寄付 匿名/20,000円(法人運営事業、福祉基金に)
- ▼一般寄付 小岩清志さん/50,000円(特別養護老人ホーム事業に)
- 【寄贈品】 ▼法人へ 厚岸湖北商業連合会 /行事用テント 沢田まなみさん/古切手

第2回 あっけし昔話

今だからこそ聞きたい、
厚岸の、昔々のこと。

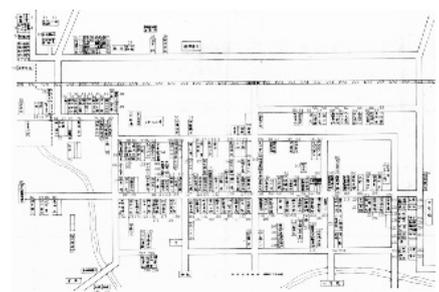


上尾幌椎茸生産のパイオニア
安達 由圃さん(82歳)

第二回目となるあっけし昔話、今回の語り部は、上尾幌在住の、安達由圃さん。安達さんは生まれも育ちも上尾幌。小学生の頃、生徒は一学年七十人程いたようので、人口の密度では湖南、湖北地区に負けず劣らずだったそう。上尾幌地区は林業と炭鉱で栄えていた町で、安達さんの父は伐採した木材を運ぶ馬のひづめの管理を行う「装蹄師」だったという。早朝から装蹄を待つ馬が毎日二十頭程並んだそう。当時の地区の雰囲気を知ると、「町には飲食店や飲み屋もあり、家は隙間が無いだけ建ち並び、人が多く賑わい、活気があり、栄えていたよ。」と懐かしむ。

中学から絵を描くことに興味を持ち、高校では絵画クラブに入り作画にのめり込んだ。高校一年の時に釧路の作品展「釧美展」に出展した、牛の頭蓋骨を油絵で描いた作品は「道新賞」に選ばれた。その後も「市長賞」などを数回受賞するなどし、一目置かれていたそう。

昭和後期、炭鉱は全て閉山、林業も衰退。同時に上尾幌地区も過疎化が進むが、その状況を打破すべく、有志と地域活性化のアイデアを出し合い、行政と話し合いを重ねた。元々上尾幌では原木椎茸や他のきのこの栽培があったが、ある時、役場職員と群馬県で菌床椎茸の栽培を視察し、「これだ!」と思い、早速栽培にとりかかった。しかし、そう簡単ではなく、二年ほど上手くいかなかった。その後数年で要領を得て、軌道に乗る。



昭和三十年頃の上尾幌市街地図

「北海道で菌床椎茸の栽培を確立したのはおそらく僕が最初」という。まさにパイオニアである。その後、安達さんを中心に栽培のノウハウを蓄積し、データを武器に行政に働きかけ、一九九六年、「厚岸町きのこ菌床センター」が建設された。現在は九戸の生産者が良質な椎茸を世に送り出している。安達さんは息子さんの史真さんに世代交代をし、令和四年には「第十七回北海道きのこ品評会」の、菌床生椎茸部門で「極茸」が最高賞にあたる「林野庁長官賞」を受賞した。

筆者も食べたことがあるが、肉厚・ジュシーで本当に美味しい。皆様も、歴史と生産者の努力を感じながら、厚岸・上尾幌産の絶品椎茸を是非、ご賞味あれ。

厚岸町社協広報『しゃっきー』
2024.10/No.196【編集】広報委員会(以下、委員)
米内山紘輝、奥山夕紀、松尾麻理子、芳賀里香
小笠原晶子、穂谷匡彦、加藤嘉史、本庄祐長

社会福祉法人厚岸町社会福祉協議会
〒088-1115 厚岸郡厚岸町梅香2丁目1番地
厚岸町社会福祉センター内
TEL 0153-52-7752 FAX 0153-52-6044

